

by forensic science

鑑定人プロフィール

(文書鑑定に関する主な報道事例～2024年)

2024年7月編集vol.2



偽造通貨対策研究所
法文書鑑定室

Counterfeit Currency Detection Research

はじめに

■通貨鑑定について

コロナ禍が始まった2020年1月から収束にいたる2023年5月（WHO発表）までの3年半の間、国内で発見される各種偽造券は激減しました。過去の捜査において、国内で発見された紙幣や商品券の殆どが海外で造られ、日本に持ち込まれていることが明らかになっています。

特に2008年頃から急増した聖徳太子一万円偽造券や各種のカードギフト券は、その大半が東アジアや東南アジアで造られていたことが判明しています。コロナ禍中は、入国規制により訪日外国人が98.4%減（2021年4月ピーク値）となりましたが、コロナ禍は偽造券が海外で造られていたことの証左になったと言えるでしょう。

偽造券の減少については、キャッシュレス化による影響も否定できないと思われますが、キャッシュレス化で偽造券が根絶されるか、という命題については、疑問が残ります。あくまで一般論ですが、偽造券は裏社会の産業であり、それなりに生活を支えています。キャッシュレス化がすすむと、裏社会でも失業者が増えることは明らかで、中にはより凶悪な犯罪にすすむ例も想定されます。

2005年ビール券や首都高回数券が廃止されましたが、その後発生したのが「おれおれ詐欺」です。急速なデジタル化、キャッシュレス化が別の凶悪犯罪を生むことのないようバランス感覚をもって社会が成熟していくことが求められています。

偽造通貨の発見枚数

(枚)

年次 区分	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和6年 1～3月
1万円券	2, 643	2, 075	906	583	204
5千円券	3	11	20	20	0
2千円券	2	0	0	0	0
千円券	45	24	22	78	0
偽造銀行券 合 計	2, 693	2, 110	948	681	204
5百円貨幣	1, 124	1, 145	825	331	24

※ 発見枚数とは、届出等により押収したとして、都道府県警察から当庁に報告のあった枚数（令和6年3月31日現在）。

■文書鑑定について

高齢化社会を反映してか、遺言書について筆者真筆で書かれてはいるものの、その内容が不自然で、一方に極めて不利（あるいは有利）な相続内容のため、相続人間で係争に発展するケースが見受けられます。近年医療技術が向上し、寿命が延びた結果、認知能力がなくなっても運動（書字）能力が残る筆者が、近親者の指示や圧力で遺言書を書かされる例が増えているのです。筆跡鑑定としては本人筆跡とならざるを得ず、筆跡鑑定としての限界点と言えるわけですが、それでは問題は解決しません。

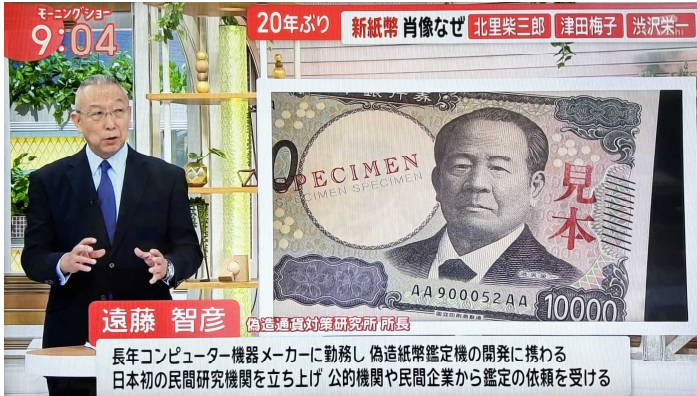
このような事案については、筆跡心理鑑定が必要になります。筆跡心理鑑定は、筆者の意思が遺言書に反映されていないことを立証する鑑定であり、今後在野の鑑定人においては、同鑑定の鑑定手法を習得する必要があるでしょう。

例えば署名ですが、署名は誰しも人生で最も書き慣れた文字であることに異論はないと思います。署名は文字列として一体の筆跡個性を持っています。署名ならではの個性で、認知能力が失われた筆跡であるか否かは、署名（文字列）として筆跡個性が存在するか否かを解析することになります。今後在野の鑑定人に求められる鑑定手法と言えるでしょう。

2024年7月吉日

偽造通貨対策研究所
所長 遠藤智彦

20年ぶり新紙幣発行 対応間に合わない事業者も



【番組進行】

■『渋沢栄一』実は “復活当選” 背景に偽装防止技術の進化？

7月3日から新紙幣の発行が始まります。新・一万円札に描かれる渋沢栄一は、過去に採用が検討されたことがあります。

実は、1963年から発行された新・千円札に採用される寸前でした。今回61年ぶりの“復活当選”と言えます。当時の、新・千円札の肖像画の選定では、伊藤博文と渋沢栄一が最終候補になり、渋沢栄一が落選しました。



偽造通貨対策研究所の遠藤智彦所長によると、「昔は、紙幣の肖像には、偽造防止の観点から、ヒゲを生やし顔に凹凸がある容貌がふさわしいとされていたが、技術革新によりヒゲは肖像に必要なくなった」ということです。



今回の新紙幣で採用されている

『すかし』は肖像だけでなく肖像の周囲に小さな菱形の模様が入っています。菱形の模様は、とても細かい線で構成されているため、偽造がより困難だということです。

新しい偽造防止技術の2つ目は、

『3Dホログラム』です。立体的な肖像が左右に回転します。この技術が紙幣に導入されたのは世界初となります。光沢があり、角度を変えることで肖像も向きを変えます。コピー機などでお札を印刷すると、このホログラムの特性は失われるため偽造防止に有効ということです。



ナチスが作った偽造5ポンド紙幣



戦争の武器は兵器や弾薬だけではない。第二次大戦においてナチスはニセ札を武器として使用しようとした。当時のヨーロッパの基軸通貨であったイギリスのポンド紙幣を大量に偽造し、ヨーロッパ上にばらまくことによってイギリスの経済を崩壊させようとした。



責任者に命じられたナウヨックスは100年前から使用されている高額紙幣の5ポンド紙幣の偽造に取り組む。しかし紙作りの段階から失敗して難航することになる。

イングランド銀行に潜入したスパイからの報告で紙の問題は解決するが、次の原版制作と印刷でも手こずることに。



しかしイングランド銀行では判別できても、海外の銀行では判別できないレベルのニセ札の製造までこぎ着けるが、ここでナウヨックスが失脚、作戦は棚上げとなる。(Webから)

【偽造通貨対策研究所への取材】
『当時の技術では偽造対策も未発達のため、印刷機材と紙やインク等の材料と印刷技術者の確保ができたとすれば、当該ポンドの偽造は可能であろうと思われます。』

但し、すかしの再現は、製紙工場を保有し用紙を抄造する必要があります。これは並みの偽造団では不可能と言えるでしょう。この点から当該ポンドは、国家規模で造られたことが窺い知れます。』



台湾で発見された2億円余の偽造聖徳太子壹万円、なぜ今？



台湾で聖徳太子壹万円の偽造が台湾北部の新北市で発見されました。その額は2億円余です。なぜ今旧一万円の偽造がしかも大量に見つかったのでしょうか。台湾警察は密輸の疑いで67歳の女を逮捕しました。女は2012年に中国から輸入し、2億5千万円を日本に輸出しようとした。



通貨鑑定のエキスパート、偽造通貨対策研究所の遠藤智彦所長は『旧一万円の偽造は2008年から急増しています。すかし以外に偽造対策がなされていないため、偽造が造りやすいと言えます。また1982年に発行及び流通停止となりましたが、法律上は有効な貨幣のため、銀行や郵便局にもちこめば換金や両替も可能です。



しかし流通停止から37年たち、銀行や郵便局職員も本物を見たことがなく、鑑定が難しくなっています。もちろん銀行ATMも旧券に対応していません。』と、コメントしています。



続いて『言わば社会の隙を見つけた犯人は、実行犯として高齢者を雇い、タンス預金を装って銀行窓口を持ち込んでいます。

聖徳太子の旧一万円については、当面は、受け取らないか、あるいは日銀または警察に相談することをおすすめします。』と、警鐘を鳴らしています。

平成16年以来の改訂、一万円は近代日本経済父「渋沢栄一」



深川リポーター

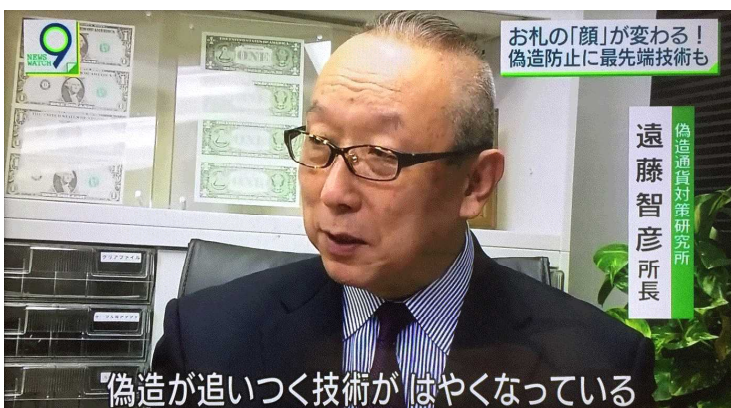
今回の変更は平成16年以来。肖像や額面の数字が大きくなるなどの見た目の変更だけでなく、世界初となる偽造防止対策を盛り込むことにしています。一体どんな技術なのか。偽造防止対策の専門家の遠藤智彦さんです。



『今回、日本が導入する技術は、斜めに傾けると肖像画の向きが変わったり立体的に回転するように動いて見える最先端のホログラムだということです。だから3Dと言われています。現行は2Dで、数字とマークが交互に現れます。』



現行の一万円にもホログラムがありますが小さく端に位置するため切り取られて悪用された例もあります。高度な偽造対策が施されても偽造はなくならないと思いますが、見破ることが容易になるため、結果として偽造券は減る可能性が高いと思われます。発行される2024年まで、まだ時間がありますが、その間に偽造券の再現技術が追いつく可能性もないとは言えません。



これは通貨に関するエピソードですが、2001年にユーロ紙幣が新たに発行されたとき、一部地域で本物より先に偽造券が出回ったことがあります。

いずれにしても高額紙幣を受け取る時は注意が必要です。』

市中両替商が狙われた鑑定機を通過する高精度偽造100ドル



今月、東京都内の外貨を両替できる店で、極めて精巧に偽造されたアメリカの100ドル紙幣が相次いで見つかったことがわかりました。偽の紙幣はこれまでに数十枚に上るということで、専門家が注意を呼びかけるとともに、捜査当局も確認を進めています。



金券ショップ4か所で、偽造100ドル紙幣が相次いで見つかりました。偽の紙幣は外観としては高精度ですが、中央にある青い帯の模様見え方がわずかに異なる他、右下の図柄に紫外線をあてると黄緑色に変色することが確認されています。



偽造通貨対策研究所の遠藤智彦所長は『記番号がKFで始まるのが特徴で、精度としては極めて精巧な偽札で、それと気付いていない店も多くあると見られます。』



外国人観光客の増加で、外貨両替の取扱い量が増えており注意が必要です。訪日外国人が増える中で、今後は好ましくない外国人による偽造券の持込みも増える可能性が高い。すでに偽造券と気づかずに所持しているひとがいるかも知れないので、100ドル紙幣をお持ちの方は、使う前に確認した方がいいかも知れません。特に表面中程の青い3Dリボンがアニメのように画像が動くか確認してください。偽造券はここが動きません。』

現金をだまし取るホワイトマネー詐欺、白い紙がドル紙幣に？



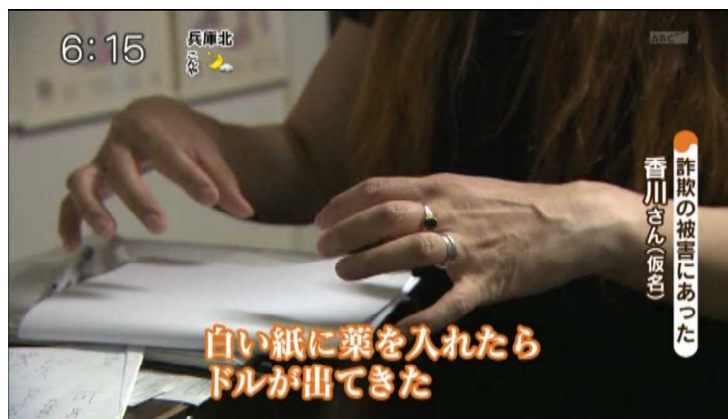
特殊な薬品を白い紙にかけるとドル紙幣に変わるとして、多額の現金を欺し取るいわゆるホワイトマネー詐欺について、番組では外国人詐欺グループを追跡しました。大阪で整体院を経営する女性が1200万円を欺しとられました。



「（女性）容器に白い紙を入れ、その上から黒い液体をかけると紙は黒くなり、次第にドルの絵柄が現れた。200万円もらえれば100万ドルの紙と液体をわたすと言われた。」結局、犯人は57枚の100ドル紙幣を作り立ち去った。

大量の白い紙が残ったが、少しずつドルに変えると言った。

番組では偽造通貨対策研究所の遠藤所長に本物かどうかを見てもらった。『（遠藤）経緯はともあれ、これらの100ドルは物性鑑定上は本物と言えます。』



結論としては、これはトリック詐欺です。現像液に浸すと黒い紙が紙幣に変わるブラックノートと同じで、目の前で手品のように紙幣に変わるところを見せて信用させます。信じた相手には、先ず白い紙を渡してお金を受け取り、現像液は同時には渡しません。



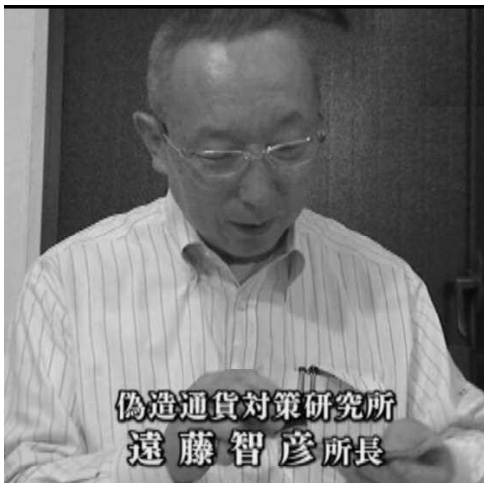
用意に時間がかかるとか、あるいは輸送時に瓶が割れたので新たに取り寄せている等と言って、時間稼ぎをして発覚を遅らせながら、逃亡するのです。』

また現れた偽造聖徳太子一万元の金融詐欺



40代日本人男性が
持ち出そうとして
空港でバレた！

「聖徳太子の1万円札」は本物か 台湾で1億円超没収



偽造通貨対策研究所
遠藤智彦所長

2月19日台湾の桃園国際空港の税関で大量の旧1万円が発見された。その額1億1900万円分。台湾では1万ドル以上の外貨を持ち出す場合は申告が必要だが、持ち主の日本人男性(48)は未申告のため、台湾税関で取り調べを受けている。

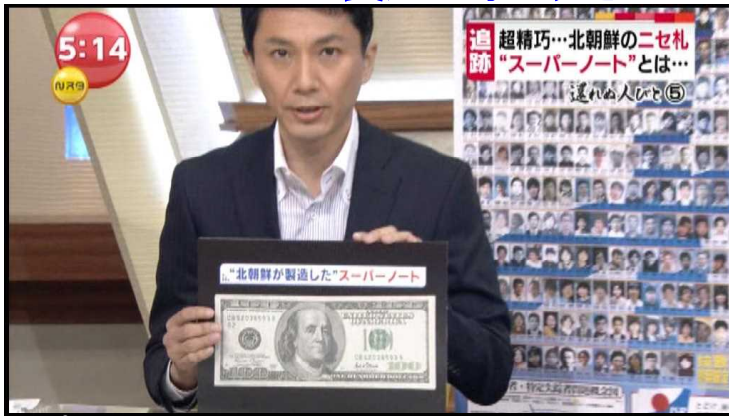


◀ 中華民国と書かれた紙で封がされた大箱。中身はPS券がビッシリ
▼ 新札のPS券は丁寧に小分け袋に入った状態で売られているという
▲ 現地ブローカーの手に保管されていた数億円分のPS券の束

遠藤鑑定人は『今までの偽造とは製法や印刷が違いますが、本物らしく再現工夫がされ高精度です。但し、透かしで偽造と分かります。透かしは紙の凹凸で表現しますが、これは印刷で再現しています。』

かつてGHQが日本で押収した資産の一部と称する「M資金」詐欺が横行したが、PS券はさしずめM資金の「台湾版」と言えるのではないだろうか。

スーパーノート製造に拉致された日本人が関与させられていた？



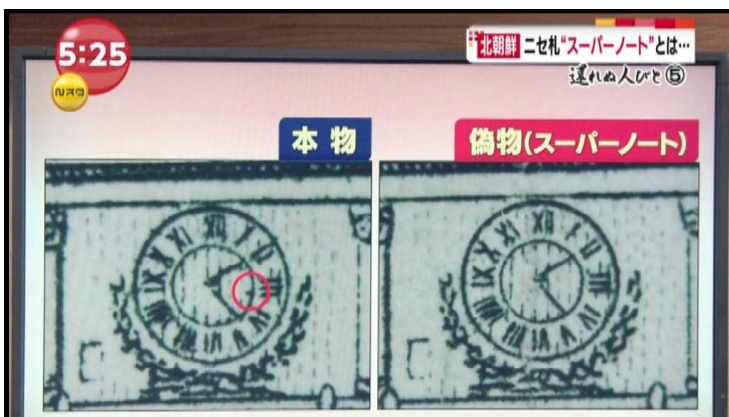
80年代後半から世界中に出回り始めた偽造券スーパーノートは北朝鮮が製造したとされています。

本物と何処が違うのか、偽札鑑定を行う民間研究機関の偽造通貨対策研究所遠藤所長にその見破り方を聞きました。



『設備があっても、エンジニアがいないと高精度偽造券はできません。特定失踪者にはインクや用紙、さらに印刷機に関する様々な印刷技術者が多数含まれており、北朝鮮で製造に関与させられた可能性が高いと考えられています。』

スーパーノートは完成までに10年以上はかかっているでしょう。



たとえば裏面に描かれた時計台について、本物は文字盤のⅢ時のところにドットがついていますが、偽物にはありません。もし汚れならスーパーノートの方が本物より正しく出来がいいと言えます。

スーパーノートでは時計の分針が、1～2分進んでいるように見えます。但し、時計の実寸は直径2mmほどで印刷の位置が真ん中で、折り目もあるため鑑定を難しくしています。



訪日外国人増大で、今後外貨の持ち込みが増えれば、偽造券の流入も増える可能性が高いと言えるでしょう。当面100ドル紙幣を受け取る際は注意が必要です。』と、注意を喚起しています。

アメリカの新しい100ドル札が発行されました。



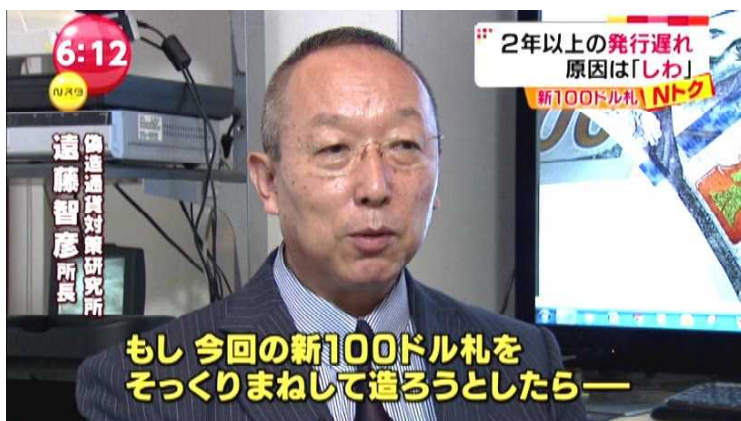
一昨年2月に発行が予定されていたアメリカの新100ドル札が、ようやく登場しました。図柄が動いて見えるなど最新の偽造対策技術が盛り込まれていますが、3年ごしの発行遅れには意外な理由がありました。



偽造通貨対策研究所の遠藤所長は、『印刷の際にできた紙のしわが原因で発行が遅れたようですが、新100ドルは、動画のように傾けると画像が動く3Dリボン、色が変わる特殊メタリックインクが採用されました。もし高精度偽造券を造るとしたら最新設備の印刷工場と製紙工場が必要になります。並みの偽造団では再現は難しいでしょう。』



今回の紙幣改訂の要因ともなっている高精度偽造米ドルスーパーノートは、いままで新券発行後3年ほどで出現しています。



北朝鮮製と言われ、本物と同じレベルの印刷設備と用紙も専用の製紙工場で作られており、何より経年変化も本物と同じようで見破るのは非常に難しく、長期間流通する可能性が推定されています。

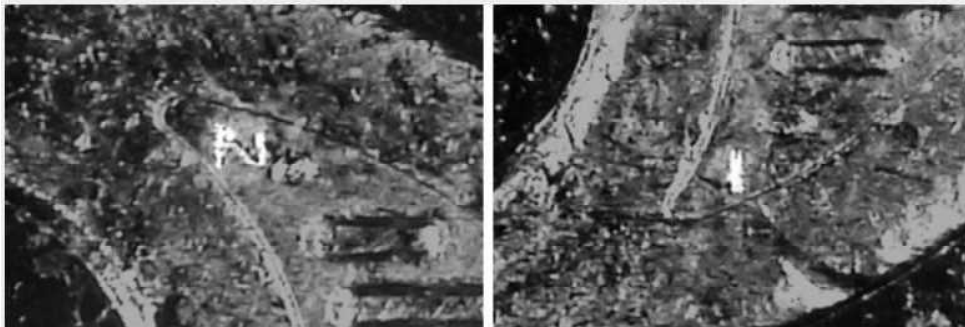
今回の最先端技術の3Dリボン新100ドルに、いつの日かスーパーノートが現れたとしたら、それは世界的に大いなる脅威といえるでしょう。』と、コメントしています。

東海地方で被害拡大!「偽500円硬貨」が大量流通



「これは偽造された500円硬貨です」

日本銀行の職員は、コインをまじまじと見た後にこう断定したという。今年の5月下旬、右上の写真の偽500円玉が、名古屋市内のある警備会社から大量に発見された。すり減った貨幣の交換も行っているが、日銀名古屋支店へ持ち込んだところ、偽造と分かった。



偽造通貨対策研究所の遠藤所長は

- ・〈潜像加工〉傾斜視認で、「0」の中に『500円』が現れる。
- ・〈縁のギザギザ〉縁に再現が難しい斜線ギザが刻まれている
- ・〈微細点〉表面桐絵の中にマイクロ文字が刻印されている。
- ・〈微細線〉『日本国、五百円』の周りに微細線が施されている。

と話す。

『今回、見つかったのは平成18年ものです。直径・厚み・重さはほぼ同じで材質検知機能のない識別機では、見破ることができないんです』

このような精緻な偽500円玉はど



こで造られたのだろうか。遠藤氏が続ける。『商品券や500円硬貨の偽造出現は、同時期に集中しています。従来多くの偽造券は海外で製造され、国内の暴力組織が地下のパイプに送り込み、組織の末端により同時、多発、広域で行使するのが一般的な流通方法です。用心されると地下のパイプに眠り、波状攻撃のように流通を繰り返すので当面注意が必要です。』

オウム真理教高橋克也の筆跡鑑定。数字「9」の筆順について

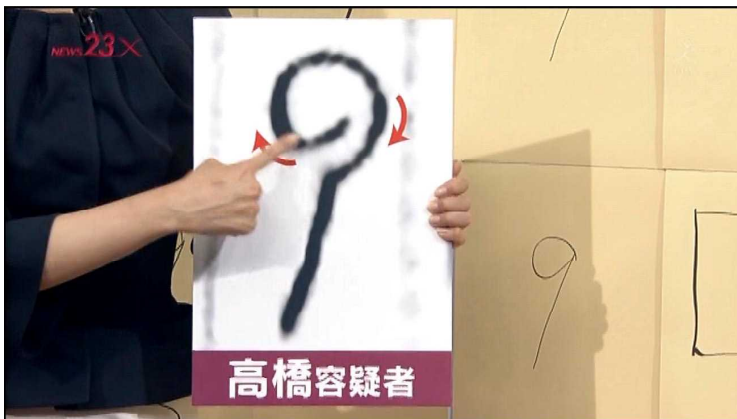


「オウム真理教の特別手配犯である『高橋克也』容疑者の筆跡が警察により、公開されました。

高橋容疑者が、桜井信哉の偽名を使って、川崎市内のある信用金庫から自分の預金を引き出した払い戻し伝票の筆跡を鑑定しました。」

「その結果、数字の「9」について、高橋容疑者は「の」字を書くように時計まわりに書いています。筆跡鑑定の専門家はこの書き方をどう見るのでしょうか。筆跡鑑定が犯人逮捕につながるのでしょうか。」

『文字の筆順は、筆跡鑑定において極めて有力な鑑定要素になっています。』



なぜなら、筆跡は運動個性なので、文字を覚えた幼少期からその人の運動のくせとして定着し、固定化するからで、そのため筆者ならではの筆跡個性として希少性のあるくせが恒常的に出現するため筆跡鑑定が可能になるのです。』

「数字の「9」を時計回りに書く人の割合は、どれくらいなのでしょう。」



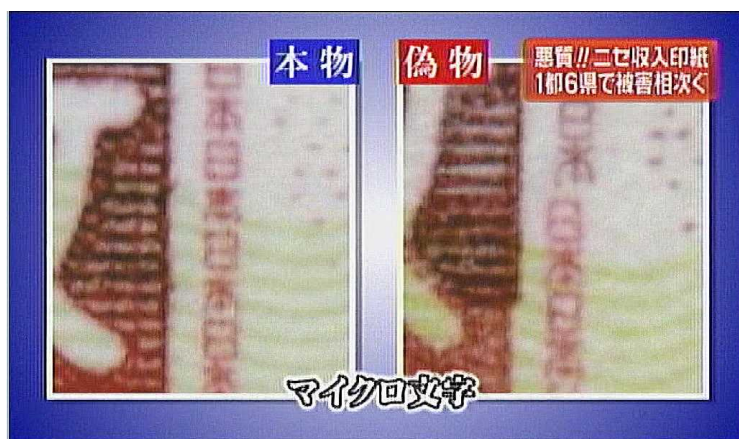
『時計回りに「9」を書くのはエンジニアが多いと言われていますが、30人に1人くらいの割合でしょうか。これを出現率と言いますが、あらわれる確率から言って、希少性が高いことから、本人すなわち高橋容疑者の筆跡である可能性が高いと言えます。』



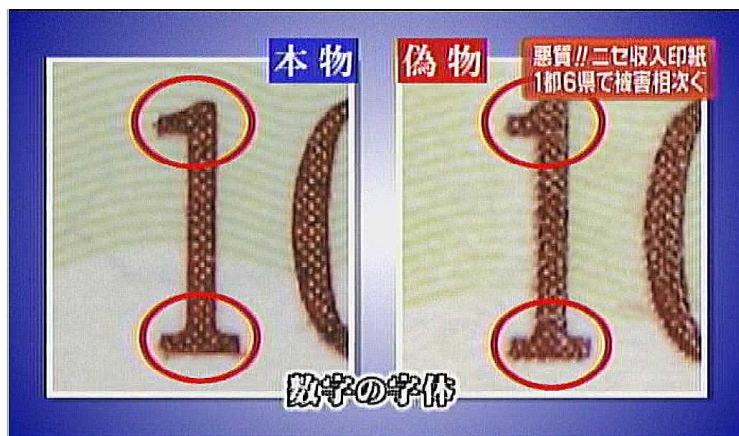
都内、名古屋、大阪、熊本各地で偽造一万円収入印紙の被害相次ぐ。



今年5月から都内、名古屋、福岡県などで、にせの一万円収入印紙が出回り、チケット商などで換金されていることがわかりました。被害総額は、いま現在1都6県820万円以上に達しています。商品券や切手・印紙の偽物に詳しい偽造通貨対策研究所の遠藤所長に取材しました。



『偽物の特徴については、極めて精巧な出来栄で、縦方向に印刷されたマイクロ文字「日本」も再現されています。但し、拡大するとわずかに列が左右にずれていることが分かります。また赤と茶色のグラデーション部分にもずれが見られます。』



『当該偽造券の特徴として数字「1」について、本物と字体が異なっています。赤丸部分ですが、偽造券のほうが真正券より角張っています。』

その他の微細部分は、ほぼ高精度に再現されていて、目視の鑑定では見分けることが困難です。昔の偽造印紙は、ミシン目が不揃いなため、見破りやすかったのですが、偽造券は整然としています。』



『偽造券は、同時、多発、広域に行使されることが多く、流通力が弱まると、予め用意した異なる金種の偽造や別種類の偽造券を矢継ぎ早に投入し、荒稼ぎしようとします。一般の用心する心理を逆利用するやり方です。収入印紙については、金種によらず、しばらく注意しましょう。』

研究所概要と鑑定人略歴

偽造通貨対策研究所所長 遠藤智彦

1979年専修大学(法学部)卒。(旧)日本ユニシス㈱、(旧)日本オリベッティ㈱などのコンピュータ関連機器メーカーに勤務。金融機関向け業務機器として偽造米ドル紙幣鑑定機の企画開発を経験。日本チケット商協同組合顧問として偽造商品券対策、外貨両替業務について指導。裁判所及び法律事務所より嘱託鑑定人として筆跡・印影等の文書鑑定の嘱託を経験。各種文書鑑定装置の企画・開発及び製造・販売を経験する。(旧)大蔵省認可両替商向けに1987年から外国為替自由化の1997年まで、約10年間にわたり全国税関主催の両替商連絡協議会で講師を担当。主に偽造券の見破り方、外貨両替窓口の安全対策について講演。紙幣鑑定機、外貨両替機、鑑識機材関連のハードウェア及びソフトウェアの特許多数。



所長 遠藤智彦近影

ご挨拶 当研究所法文書鑑定室では、筆跡、印影、指紋(拇印)、印刷文書、その他紙幣、証書、商品券などの真偽鑑定について、鑑定及び鑑定書の作成・発行を行っています。自社開発のビデオマイクロスコープ(max1000倍)を使用し、検体を立体画像化(3D)して各種解析を行っています。さらにForensic Science(鑑識科学)として紫外線・赤外線等の光学的手法により、インクの成分、資質を解析し、潜像文字や筆圧痕を検出(非破壊検査)しています。解析結果は最新のコンピュータ画像処理技術を駆使し、第三者に見やすいビジュアル画像と平易な解説で鑑定書に掲載します。最近の課題は、認知能力の低下した筆者が書いた筆跡で、真筆ではあるものの真意が反映されているか、否かの筆跡心理鑑定が求められます。弊所では、高齢化社会を反映した新たなカテゴリーとして取り組んでいます。

偽造通貨対策研究所

名 称 偽造通貨対策研究所 Counterfeit Detection Research.

所 長 遠藤智彦(鑑定人)

鑑定事例(公的機関からの嘱託鑑定)

全国地方裁判所 全国法律事務所 各地方警察本部 東京税関 全国金融機関 大使館他

講演依頼(及びマスコミ取材についての対応)

講演事例: 通貨、証書、商品券等各種の偽造防止、安全対策について名古屋税関、門司税関、横浜税関、金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、農協)、ホテル、各業者組合(日本チケット商協同組合、全国質屋協同組合等)、

取材事例: 新聞社、TV及びラジオ局、出版社、その他偽造事件発生時における報道関係各社の取材について随時対応。

加盟団体 日本法科学技術学会 日本鑑識学会 国際鑑識学会 日本犯罪学会 日本印刷学会 計量国語学会
全国両替商防犯連絡会(JESC)

サイト情報(偽造通貨・商品券鑑定マニュアル)

<http://www.cdrjapan.co.jp/gtk/manualsetumei/tuukamanual%20mokuji.htm> (偽造通貨用)

<http://www.cdrjapan.co.jp/gtk/ticketmanuall/ticket%20konomokuji.htm> (偽造商品券用)

<http://www.gizoutaisaku.com/manual/kanteinin%20Profile.pdf> (鑑定人プロフィール)

所在地 〒104-0061東京都中央区銀座7-15-8銀座堀ビル4F(日本シーディーアール㈱内)

連絡先 TEL03-3541-1982 FAX03-3541-1952

E-mail: info@cdrjapan.co.jp(事務局)

<http://www.gizoutaisaku.com>

日本シーディーアール(株)※偽造通貨対策研究所の母体会社になります。

名 称 日本シーディーアール(株) Counterfeit Detection Research Japan Co., LTD.

代表者 代表取締役 遠藤智彦

設立 1992年3月

資本金 1,000万円

事業内容 紙幣鑑定機、商品券・証書鑑定機、外貨両替機、レート表示ボード等外貨両替関連機器及び文書鑑定機器の企画開発・販売。

本 社 〒104-0061東京都中央区銀座7-15-8銀座堀ビル4F(受付)

サイト情報 <https://www.cdrjapan.co.jp/cdr>

拠 点 札幌 秋田 仙台 東京 名古屋 大阪 広島 福岡 沖縄

関連団体 全国両替商防犯連絡会(JESC)